

## 5-2 教育改革のための情報通信技術活用に伴う知識と戦略的活用の普及

### 5-2-1 教育改革 I C T 戰略大会

#### <事業計画>

教育の社会的責任を共通認識する中で、教育改革の基本問題、情報通信技術を活用した教育の政策、教育改善の工夫、情報教育の進め方、最新の情報技術及び情報環境などの知識・理解を啓蒙・普及するため、文部科学省の後援を受けて全国の大学・短期大学を対象に「教育改革 I C T 戰略大会」を実施する。例えば、学習時間の確保問題、教員間によるシラバス内容の調整、教育改善モデルによる望ましい授業デザイン、学習意欲を喚起する対話型授業の工夫、情報関係科目の入試出題、モバイルの授業利用など、教育のイノベーションにつながる課題をとりあげる。

#### <事業の実施状況>

事業の実施は、「教育改革 I C T 戰略大会運営委員会」を継続設置し、教育改革 I C T 戰略大会を開催した。以下に、委員会及び大会の活動状況について報告する。

#### 教育改革 I C T 戰略大会運営委員会

平成24年5月1日、6月5日、25年3月18日に平均10名または11名が出席し3回開催した。教育改革の基本問題や情報通信技術を活用した教育の政策、教育改善の工夫、情報教育の進め方、最新の情報技術及び情報環境などの知識・理解を啓蒙・普及するため、「教育改革 I C T 戰略大会運営委員会」の企画・実施準備を行った。

#### (1) 開催計画の策定

- ① 大会テーマを「質保証を目指した教育改革」とし、主体的学修を実現するために中央教育審議会からの答申等を受けて、審議会関係者からその背景及び内容と教学マネジメントで考えなければならない課題を浮き彫りにする。その上で教育課程の体系化・総合化、質的転換を可能にする学修の仕組み、I C T 活用を含めた教育・学習環境などの取り組み事例の紹介を行うことにした。
- ② 学修意欲を引き出す学びの仕掛け、学部共通の情報活用能力の方向性と高校教育との接続、I C T を活用した課題解決型の能動的学修、クリッカー技術を始めとした双方向授業について個別に議論することとし、61頁の通り開催プログラムを策定した。
- ③ 以上の他に、I C T を活用した教育や支援環境に関する発表を行うとともに、大学・企業共同による I C T 導入事例の紹介をポスターセッション形式で実施することにした。

#### (2) 開催結果

9月4日から6日の3日間、東京市ヶ谷の私学会館を会場に140大学、15短期大学、賛助会員9社が参加し、発表者を含めて377名が参加した。

- ① 主体的な学修を実現するには、全学的な教学マネジメントの改革として教員間で学生本位の教育改善を目指す合意形成の仕組み作りが重要となること、カリキュラム全体の体系化・順次性を高め系統的な履修指導を構築する科目番号制の導入が不可欠であることを確認した。
- ② 事前・事後学修の徹底には、予習が前提となる話し合い学修法は質を伴う学修時間

の増加に極めて有効であること、LMSを導入した事前・事後学修のシステムは組織全体で学修時間を管理する上で不可欠な仕組みとなっていることが確認できた。

- ③ 学習意欲を引き出す学びの仕掛けでは、学習成果のアウトプットやSAを活用したアドバイス等のフィードバックにより教育効果を高めるとともに、「学びの振り返りシート」の作成は、学生の自己管理能力の育成と教育効果の状況把握に有効であることが確認できた。
- ④ 学部共通の情報活用能力の方向性と高校教育との接続では、本協会による「情報リテラシー教育のガイドライン」案はほぼ賛同は得られたが、実際の授業展開にさらなる具体化が望まれていることが判明した。また、高校教育では教科情報の履修が半分程度で実施時間が不足しており、改善策として多くの大学で入試科目に他教科と情報を組み合わせて出題する必要があることの提案が行われた。
- ⑤ ICTを活用した課題解決型の能動的学修では、単位の実質化を具現できるよう授業改善を中心としたFDの積極的な取り組み、ICT活用による学生・教員の連携、事前・事後学修へのTAの支援などが課題であることが確認できた。
- ⑥ クリッカー技術を始めとした双方向授業では、学生の関心や考え方へ応じた授業展開に有効であるが、クイズ形式などクリッカーに参加させる工夫、不正使用への対応等の課題を確認した。

なお、大会の開催概要の詳細は、巻末のⅢ. 事業報告の附属明細書【2-13】を参照されたい。



# 平成24年度 教育改革ICT戦略大会 プログラム

## 9月5日 テーマ別自由討議

会場	3階 富士	10：50 開会挨拶 向殿 政男 会長（公益社団法人私立大学情報教育協会）	講演：主体的な学修を実現するための課題 基礎学力の低下、学習意欲の低下という問題を抱える中で、生涯にわたり主観的に考える力を育成していくことが求められている。そのためには、これまでの受け身の教育から課題解決型の教育に転換することが避けられない。学生が授業の前後に自主的に学びに取り組むことが必要である。しかし、実態は教室での学修にとどまることが多い、自ら進んで取り組む学修が組織的に展開されない。中央教育審議会大学分科会大学教育部会の答申を踏まえて、教員の意識改革、学上課程教育の体系化など、総合的な視点から学修の質的転換を図るために課題を整理する。	中央教育審議会大学分科会大学教育部会専門委員 校法人早稲田大学理事長 高祖 敏明 氏	12：30 休憩	講演：学修の基本問題を実現するための教学マネジメントの考察 学上課程教育の質的転換を図るための基本的な課題を踏まえて、教学マネジメントとして対すべき課題を具体的に掘り下げ、共通認識を深める。例えば、事例をもとに学上課程教育の体系化・剛軟性をもたらせた教育プロ gramm の必要性、授業科目間の調整、教員相互によるシラバスの内容点検・調整、効果的な事前・事後学修のあり方などを紹介する。	14：40 事例紹介：教育課程の体系化 教員同士の連携・協力による組織的な教育体制について理解を深めるため、実践している大学の事例をもとに、学上力の明示化、科目の位置づけ、授業履修の上限、アドバイザーの導入による履修指導、ポートフォリオの活用、GPA の発行など、教育課程の基盤整備を形成するための制度的な仕組みについて、その重要性を確認する。	15：40 事例紹介：予習を徹底した話し合い学習法 教室での学習時間を確実に高める学習の仕組みとして、事前に課題を与えて予習を義務付け、学習した内容を授業で発表することを繰り返す中で、事前学習を主体的に取り組ませる授業（LTD話し合い学習法）の実体験について紹介する。学生が自然に学びに入り、達成感が得られるような学習の仕組みが今後組織的に取り入れられるよう、その重要性について共通理解を深める。	16：20 事例紹介：LMS導入による効果的な事前・事後学修 学習時間を確保し、効果的な学びを実施するための一つの手法として、ICTを用いた学習支援システムの中で、教員と学生の双方に向による個人学習支援を学部全体の問題として取り組んだ事例を紹介する。教員のICT導入に対する理解の呼びかけや、教員間で作成した共有コンテンツの開発など、教員が学部全体で連携して事前・事後学修に取り組むことの重要性や課題について共通理解を深める。	17：00 終了			
会場	5階 大雪	10：00 [分科会A] 学習意欲を引き出す学びの仕掛け 学習意欲を引き出すには授業に対する学びの動機付けが必要であるが、これだけでは問題は解決しない。学びに必要な学習スキルや助言を通じた個人学習支援が重要である。そこで、授業で理解できいない部分を教室外で、学生自身で相談・助言する上級生によるアドバイサー制度を導入した事例、「振り返りシート」を用いた社会人基礎力のベンチマークによる取り組み事例を題材に、学習意欲の喚起を促す学びの仕掛けについて考察する。	講題提出：西南学院大学 毛利 康俊 氏（法学部教授）	桂樹 氏（経済学部教授）	12：30	[分科会B] 大学における情報リテラシー教育の方向性と高校教育との接続 技能・態度について到達目標を紹介し、教育を展開していくべき学部の課題（カリキュラムでの位置づけ、リテラシー教育と分野別教育との連携、教員の情報活用能力の研修）について、委員会でのとりまとめを中心に考察する。また、高校での情報科教育が普及・進展していくための戦略 例えは大学入試センター試験における教科「情報」の出題などについて、その実現に向け関係者の協力と理解を深める。	講題提出：公益社団法人私立大学情報教育協会 情報教育研究委員会 副委員長 青藤 信男 氏（文教大学情報学部客員教授）	12：30	[分科会B] 大学における情報リテラシー教育の方向性と高校教育との接続 技能・態度について到達目標を紹介し、教育を展開していくべき学部の課題（カリキュラムでの位置づけ、リテラシー教育と分野別教育との連携、教員の情報活用能力の研修）について、委員会でのとりまとめを中心に考察する。また、高校での情報科教育が普及・進展していくための戦略 例えは大学入試センター試験における教科「情報」の出題などについて、その実現に向け関係者の協力と理解を深める。	講題提出：公益社団法人私立大学情報教育協会 情報教育研究委員会 副委員長 青藤 信男 氏（文教大学情報学部客員教授）	12：30		
会場	5階 横高西	10：00 [分科会C] ICTを活用した課題解決型の能動的学修 愛動的な学修では、主体的に考える力を持たせることはできない。能動的な学修とするには、教員と学生による意見交流や学生同士による教え合い、学び合いなどの課題解決型の学修で思考力や表現力を引き出し、その相性を競う授業が必要となる。そこで、一方的な説明に終始しがちな講義型授業から、グループディスカッションによる授業補助、eラーニングシステムによる授業補助、eラーニングシステムによる予習・復習環境の整備などを通じて、主体的な学修を深める工夫を考察する。	講題提出：筑波大学 石田 東生 氏（学長補佐、教育企画室長）	12：45 休憩	12：45 大学・企業によるICT導入・活用事例（ポスターセッション）の概要紹介	会場	5階 大雪	10：00 [分科会C] ICTを活用した課題解決型の能動的学修 愛動的な学修では、主体的に考える力を持たせることはできない。能動的な学修とするには、教員と学生による意見交流や学生同士による教え合い、学び合いなどの課題解決型の学修で思考力や表現力を引き出し、その相性を競う授業が必要となる。そこで、一方的な説明に終始しがちな講義型授業から、グループディスカッションによる授業補助、eラーニングシステムによる予習・復習環境の整備などを通じて、主体的な学修を深める工夫を考察する。	講題提出：筑波大学 石田 東生 氏（学長補佐、教育企画室長）	12：45 休憩	10：00 [分科会C] ICTを活用した課題解決型の能動的学修 愛動的な学修では、主体的に考える力を持たせることはできない。能動的な学修とするには、教員と学生による意見交流や学生同士による教え合い、学び合いなどの課題解決型の学修で思考力や表現力を引き出し、その相性を競う授業が必要となる。そこで、一方的な説明に終始しがちな講義型授業から、グループディスカッションによる授業補助、eラーニングシステムによる予習・復習環境の整備などを通じて、主体的な学修を深める工夫を考察する。	講題提出：筑波大学 石田 東生 氏（学長補佐、教育企画室長）	12：45 休憩
会場	5階 大雪	10：00 [分科会D] クリッカー技術を始めた双方向授業 授業中の理解度をリアルタイムで客観的に把握し、理解度の状況に応じて授業のシナリオを柔軟に変えることができる一つのツールとしてクリッカー技術がある。学部・学科を通じた組織的な取り組みや、学生の関心や考え方方に応じた授業展開を試みている使い方など、今後効果的な取り組みが期待される。一方通行的な授業から学生が授業に参加して考ええる授業を実現するために、クリッカー技術の導入と他の授業方法などを組み合わせた新たな双方向授業について考察する。	講題提出：立正大学 東京理科大学 村上 学 氏（基礎工学部准教授）	12：30	[分科会D] クリッカー技術を始めた双方向授業 授業中の理解度をリアルタイムで客観的に把握し、理解度の状況に応じて授業のシナリオを柔軟に変えることができる一つのツールとしてクリッcker技術がある。学部・学科を通じた組織的な取り組みや、学生の関心や考え方方に応じた授業展開を試みている使い方など、今後効果的な取り組みが期待される。一方通行的な授業から学生が授業に参加して考ええる授業を実現するために、クリッcker技術の導入と他の授業方法などを組み合わせた新たな双方向授業について考察する。	会場	5階 伊吹	10：00 [分科会D] クリッcker技術を始めた双方向授業 授業中の理解度をリアルタイムで客観的に把握し、理解度の状況に応じて授業のシナリオを柔軟に変えることができる一つのツールとしてクリッcker技術がある。学部・学科を通じた組織的な取り組みや、学生の関心や考え方方に応じた授業展開を試みている使い方など、今後効果的な取り組みが期待される。一方通行的な授業から学生が授業に参加して考ええる授業を実現するために、クリッcker技術の導入と他の授業方法などを組み合わせた新たな双方向授業について考察する。	講題提出：立正大学 東京理科大学 村上 学 氏（基礎工学部准教授）	12：30	[分科会D] クリッcker技術を始めた双方向授業 授業中の理解度をリアルタイムで客観的に把握し、理解度の状況に応じて授業のシナリオを柔軟に変えることができる一つのツールとしてクリッcker技術がある。学部・学科を通じた組織的な取り組みや、学生の関心や考え方方に応じた授業展開を試みている使い方など、今後効果的な取り組みが期待される。一方通行的な授業から学生が授業に参加して考ええる授業を実現するために、クリッcker技術の導入と他の授業方法などを組み合わせた新たな双方向授業について考察する。	講題提出：立正大学 東京理科大学 村上 学 氏（基礎工学部准教授）	12：30

## 9月5日 テーマ別自由討議

会場	5階 大雪	10：00 [分科会A] 学習意欲を引き出す学びの仕掛け 学習意欲を引き出すには個別学習によるアドバイサー制度を導入した事例、「振り返りシート」を用いた社会人基礎力の仕掛けについて考察する。	講題提出：西南学院大学 毛利 康俊 氏（法学部教授）	桂樹 氏（経済学部教授）	12：30	[分科会B] 大学における情報リテラシー教育の方向性と高校教育との接続 技能・態度について到達目標を紹介し、教育を展開していくべき学部の課題（カリキュラムでの位置づけ、リテラシー教育と分野別教育との連携、教員の情報活用能力の研修）について、委員会でのとりまとめを中心に考察する。また、高校での情報科教育が普及・進展していくための戦略 例えは大学入試センター試験における教科「情報」の出題などについて、その実現に向け関係者の協力と理解を深める。	講題提出：公益社団法人私立大学情報教育協会 情報教育研究委員会 副委員長 青藤 信男 氏（文教大学情報学部客員教授）	12：30	[分科会B] 大学における情報リテラシー教育の方向性と高校教育との接続 技能・態度について到達目標を紹介し、教育を展開していくべき学部の課題（カリキュラムでの位置づけ、リテラシー教育と分野別教育との連携、教員の情報活用能力の研修）について、委員会でのとりまとめを中心に考察する。また、高校での情報科教育が普及・進展していくための戦略 例えは大学入試センター試験における教科「情報」の出題などについて、その実現に向け関係者の協力と理解を深める。	講題提出：公益社団法人私立大学情報教育協会 情報教育研究委員会 副委員長 青藤 信男 氏（文教大学情報学部客員教授）	12：30		
会場	5階 横高西	10：00 [分科会C] ICTを活用した課題解決型の能動的学修 愛動的な学修では、主体的に考える力を持たせることはできない。能動的な学修とするには、教員と学生による意見交流や学生同士による教え合い、学び合いなどの課題解決型の学修で思考力や表現力を引き出し、その相性を競う授業が必要となる。そこで、一方的な説明に終始しがちな講義型授業から、グループディスカッションによる授業補助、eラーニングシステムによる予習・復習環境の整備などを通じて、主体的な学修を深める工夫を考察する。	講題提出：筑波大学 石田 東生 氏（学長補佐、教育企画室長）	12：45 休憩	12：45 大学・企業によるICT導入・活用事例（ポスターセッション）の概要紹介	会場	5階 大雪	10：00 [分科会C] ICTを活用した課題解決型の能動的学修 愛動的な学修では、主体的に考える力を持たせることはできない。能動的な学修とするには、教員と学生による意見交流や学生同士による教え合い、学び合いなどの課題解決型の学修で思考力や表現力を引き出し、その相性を競う授業が必要となる。そこで、一方的な説明に終始しがちな講義型授業から、グループディスカッションによる授業補助、eラーニングシステムによる予習・復習環境の整備などを通じて、主体的な学修を深める工夫を考察する。	講題提出：筑波大学 石田 東生 氏（学長補佐、教育企画室長）	12：45 休憩	10：00 [分科会C] ICTを活用した課題解決型の能動的学修 愛動的な学修では、主体的に考える力を持たせることはできない。能動的な学修とするには、教員と学生による意見交流や学生同士による教え合い、学び合いなどの課題解決型の学修で思考力や表現力を引き出し、その相性を競う授業が必要となる。そこで、一方的な説明に終始しがちな講義型授業から、グループディスカッションによる授業補助、eラーニングシステムによる予習・復習環境の整備などを通じて、主体的な学修を深める工夫を考察する。	講題提出：筑波大学 石田 東生 氏（学長補佐、教育企画室長）	12：45 休憩
会場	5階 伊吹	10：00 [分科会D] クリッcker技術を始めた双方向授業 授業中の理解度をリアルタイムで客観的に把握し、理解度の状況に応じて授業のシナリオを柔軟に変えることができる一つのツールとしてクリッcker技術がある。学部・学科を通じた組織的な取り組みや、学生の関心や考え方方に応じた授業展開を試みている使い方など、今後効果的な取り組みが期待される。一方通行的な授業から学生が授業に参加して考ええる授業を実現するために、クリッcker技術の導入と他の授業方法などを組み合わせた新たな双方向授業について考察する。	講題提出：立正大学 東京理科大学 村上 学 氏（基礎工学部准教授）	12：30	[分科会D] クリッcker技術を始めた双方向授業 授業中の理解度をリアルタイムで客観的に把握し、理解度の状況に応じて授業のシナリオを柔軟に変えることができる一つのツールとしてクリッcker技術がある。学部・学科を通じた組織的な取り組みや、学生の関心や考え方方に応じた授業展開を試みている使い方など、今後効果的な取り組みが期待される。一方通行的な授業から学生が授業に参加して考ええる授業を実現するために、クリッcker技術の導入と他の授業方法などを組み合わせた新たな双方向授業について考察する。	会場	5階 伊吹	10：00 [分科会D] クリッcker技術を始めた双方向授業 授業中の理解度をリアルタイムで客観的に把握し、理解度の状況に応じて授業のシナリオを柔軟に変えることができる一つのツールとしてクリッcker技術がある。学部・学科を通じた組織的な取り組みや、学生の関心や考え方方に応じた授業展開を試みている使い方など、今後効果的な取り組みが期待される。一方通行的な授業から学生が授業に参加して考ええる授業を実現するために、クリッcker技術の導入と他の授業方法などを組み合わせた新たな双方向授業について考察する。	講題提出：立正大学 東京理科大学 村上 学 氏（基礎工学部准教授）	12：30	[分科会D] クリッcker技術を始めた双方向授業 授業中の理解度をリアルタイムで客観的に把握し、理解度の状況に応じて授業のシナリオを柔軟に変えることができる一つのツールとしてクリッcker技術がある。学部・学科を通じた組織的な取り組みや、学生の関心や考え方方に応じた授業展開を試みている使い方など、今後効果的な取り組みが期待される。一方通行的な授業から学生が授業に参加して考ええる授業を実現するために、クリッcker技術の導入と他の授業方法などを組み合わせた新たな双方向授業について考察する。	講題提出：立正大学 東京理科大学 村上 学 氏（基礎工学部准教授）	12：30
会場	5階 脊	16：45 情報交流会 ※参加費 別途350円が必要です。	18：00	16：45 情報交流会 ※参加費 別途350円が必要です。	18：00	16：45 情報交流会 ※参加費 別途350円が必要です。	18：00	16：45 情報交流会 ※参加費 別途350円が必要です。	18：00	16：45 情報交流会 ※参加費 別途350円が必要です。	18：00		

9月6日 大会発表（65件）

## 5－2－2 短期大学教育改革ＩＣＴ戦略会議

### ＜事業計画＞

短期大学の教育力を強化するため、短期大学間連携によるキャリア教育の教材・資料等の共有を支援する仕組みを探求する。また、产学連携の中で、就業現場の最新情報を教材として提供できるよう、ネット利用も含めたキャリア教育支援の仕組み等についても協議し、可能性を探求する。

### ＜事業の実施状況＞

事業の実施は「短期大学会議教育改革ＩＣＴ運営委員会」を継続設置し、短期大学教育改革ＩＣＴ戦略会議を開催した。以下に、委員会の活動状況について報告する。

#### 短期大学会議教育改革ICT運営委員会

平成24年5月25日、6月21日、7月19日、10月10日、11月6日に5名又は6名が出席し、5回開催した。短期大学の教育力を強化するため、全国の短期大学を対象に「短期大学教育改革ＩＣＴ戦略会議」を実施し、短期大学間の連携による就業力育成を充実するための支援の仕組みについて検討した。

#### (1) 開催計画の策定

短期大学教育における就業力育成の充実を目指して、実践事例の紹介を通じて組織的な取り組みを探求するとともに、社会のニーズと短期大学教育のマッチングを行う中で組織的な教育改善を探求できるよう、卒業生アンケートやインタビュー等の情報をＩＣＴを活用して短期大学間で連携・共有する仕組みを「短期大学就業力コンソーシアム構想」として提案し、その必要性・実現性を確認することを開催趣旨として掲げ、以下の通り開催要項を策定した。

#### 平成24年度短期大学教育改革ICT戦略会議開催要項

日 時：平成24年9月5日（水） 13:00～16:00

場 所：アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館）

##### 【開催趣旨】

厳しい経済状況が続く中、雇用情勢はますます悪化し、短期大学卒業生の就職は困難を極め、短期大学の存続すら危ぶまれる状況になってきている。この状況を打破するには、社会的・職業的に自立できる就業力を身に付けた人材育成を組織をあげて強力に展開することが必要となっている。そこで、本会議では、短期大学教育における就業力育成の充実に向けて、体験的な事例紹介と短期大学間および产学連携の枠組みを構想する中で、全教員の協力と短期大学間での連携の在り方について探求する契機としたい。

【開会挨拶】 短期大学会議教育改革ＩＣＴ運営委員会 戸高 敏之 委員長

【事例紹介1】「就業意識向上と持続的就業のための教育カリキュラムと支援体制」

聖徳大学短期大学部 総合文化学科教授 野中 博史 氏

就業意識の向上を目指して、職業観や労働感、時事意識を育成する実学的教育カリキュラムと、行動力・実践力・社会適応力を身に付ける実践的カリキュラムの展開、教職員によるキャリアアドバイス体制の構築や研修の実施、履修指導体制の充実の他、持続的就業のための卒業生向け就業力支援情報システム構築など、取り組みを紹介する。

【事例紹介2】「卒業後5年までの一人ひとりに応じた就業力育成」

千葉明徳短期大学 講師 石井 章仁 氏

多様な学生に応じた保育者としてのキャリア形成を、キャリア・学習・生活を総合したキャリアデザインを軸に入学前から卒業後5年までの8年間に亘り丁寧に支えている。これらの取り組みとして、キャリア・コア・カリキュラムを軸にした在学中の教育改善の他、入学前キャリア教育や卒業後の相談支援、学習・交流の場の提供等を紹介する。

【事例紹介3】「地域産業界との連携による就業力と支援力育成の取り組み」

金城大学短期大学部 就職進学支援部・ビジネス実務学科教授 藤元 宏一 氏

社会のニーズに対応した就業力育成の支援を行うため、地域企業との連携によるキャリアデザイン指導計画の作成、指導力養成講座・就業相談講座の開催、教員インターンシップにおける企業の採用と人材育成の実態把握、それに伴う教員のビジネス知識習得など、就業支援力強化への取り組みを紹介する。

【全体討議】「連携による就業力の向上を目指して」

就業力を育成するためには、全教員が一丸となって取り組むことが必要であるが、現状では必ずしも十分ではない。この問題を解決するため、既に取り組まれている事例の報告を踏まえ、教員が主体的に授業内容やその実施に組織的に取り組むなどの見直しを行い、有効な方策を模索したい。また、就業力育成の在り方については不断的見直しが必要である。このためには、実社会で多様な職業に従事する卒業生の情報を収集し、活用することが必要であるが、個々の短期大学での情報収集には限界がある。そこで、ICTを活用した短期大学間での情報共有の仕組みを構築する必要性と実現性について理解を深めたい。

<問題提起>「就業力と個々の授業科目との関連性に関する体系化、および卒業生の情報収集について」

- \* キャリア教育実施状況に関する調査結果報告  
運営委員 小棹 理子氏（湘北短期大学）
- \* 事例報告  
運営委員 豊田 雄彦氏（自由が丘産能短期大学）
- \* 短期大学連携のための就業力コンソーシアム構想の提案について

<討議>

## (2) 開催結果

- ① 参加者は31短期大学から43名と昨年度より22名増加した。  
3短期大学からの取り組み事例から、職業観・労働感・時事意識を育成する実学的カリキュラムの設定、教職員一丸となった支援体制、卒後も含めた学生一人ひとりに対応したきめ細かな支援、地域産業界と連携した指導計画の作成、指導力養成講座等の実施、教員インターンシップが必要であることが確認できた。
- ② 就業力コンソーシアム構想の提案については、おおよそ参加者からは良い反応が得られた。
- ③ 卒業生アンケートの質問項目が多すぎると回答率が低くなるが、今回の提案した質問数は適当であると思われること、アンケートの実施回数や回答方法などは卒業生の協力が得られやすい工夫が必要なこと、就業力のとらえ方は難しいが就職率ではなく、持続的に仕事をしていく力を考えていく必要があることが確認された。

なお、開催結果の詳細は巻末のⅢ. 事業報告の附属明細書【2-14】を参照されたい。